

実践 小説の作法 ④

7/11

作家や編集者は文体をどう捉えているか

文体と推敲を一番気にする

◎ 前回、人物についてやったが、その内容だけで勝負するのはダメ。
人を書く。暗い面や傷を描くというのは、人を傷つけることでもある。
そして文章にあるということば、それを残してしまうこと。

文章を書くとは 二つまんにならない。見栄をはらない。

素直になればいくらでも書けるのは当たり前のことなのさ。

身勝手には書かない。

小説 = いろんなジャンルやパターンがあるか

良い文章かどうかは 他人が判断するもの

プロとアマの違いは どれくらい読み返すか。
プロは 3回くらい読み返す。
アマの人は たいてい 自分の文章を 読み返さない。

雑談？ (なんか、作家が太るのは 職業病、一言とか)

ここでまた 春樹 批判 してくれ!!

おもしろいな

健康が一番。

まーでも結局 春樹のよーな作品は 逆輸入ものであるというのは 同僚です。
優秀とかではない。んで それを 真似てもダメってのが わかります。

文体をつかまいには いっぱい書かなければならない。

④文章が壊れていても構わない。舌打ち 悪文 もんだいナシ。
(ただし、書きたい情熱が上回っている場合のみ)

↓
どうせ編集者の目にとまってから直しは入りまくるし(笑)

その時に、イヤ人の目のほうが正しいと思っとけ。

↑特に女生はガンコらしいですぞ。

文体でいちばん大事なものは... 書きかた。

スピード感を出したいなら句点が多くなる。

じっくりと言読ませるなら句点や改行などなるべくしない黒い原稿

(くりかえしとか 主語が多くなるとか 幼稚な文章とか) 疑声や 疑態 とかね
前の文章を受けて書くとかは、自分に酔ってるだけ。

いでも自分ではそーゆーの見つけにくいものだ。

なるべくタイトな文章のが 薙くものを見てる感じ。

長編が短編かでも当然、書き方は変わる。

ここで唐突に ちよだ女学賞の案内。

恋愛小言系が いいよー と言ってた。

ちよ、と発想を変えね。という。

もう出すつもりで 半分ぐらい書いてるけど...

ここでいきなり

盗作タメ！ ゼッタイ！ という言葉。 まあ そりゃそーだよネ。

文章の真似は良いけど 中身はバクちない。

文体にオリジナリティーを出したいなら...

四字熟語や手あがのついた言葉、簡単に出てくる言葉は
使わない。
現在使われてない言葉とかも

自分の言葉で書く。これです。

それも文体。

あざといのはアリ。どうしても売れるが、どうしても目に止まるかは考える
編集者は文体を持ってるか否かを見る。

なぜなら、文体を持ってる人は今後も書けるから。

◎ 文体を凌駕する唯一のものは情熱である。

書きたいものがマクマみたいに熱すまで書くなや。

↓

でも、どんな時でも書けるように持っていくべき。

文章に親しい環境が下書きになるので

たくさん読み、たくさん書いて文体を得よう!!

質疑コーナー

Q. 新人賞などのあらずは、どのように書くべきか?

A. たぶん下読みの方は必ず読む。大賞レベルなら関係ない。

本文を読みたいと思わせるものを書けばいい。

Q. 盗作の線引き。例えば海外文学の設定を日本に移して展開を
ちよっと変えたりとかは?

A. それはやめたほうが良い。方法論にすぎない。